

梅雨、お見舞い申し上げます。梅雨ではなく、九州では集中豪雨、4月の地震に続き激しい雨に見舞われています。心よりお見舞い申し上げます。今年の夏も暑くて不安定な気候となりそうですね。ご自愛ください。

英国のEU離脱が国民投票で決まりました。事前の世論調査や政府・企業・市場関係者の見方では残留で決まりということでしたから開票が始まった途端に大混乱が始まり、市場は大暴落。政治家も狼狽するばかりで混乱は拡大。

もともとEUは風土も歴史も民族的個性も違う欧州各国が、米国、社会主義圏、日本、中国などに対抗して経済的に強くなることを求めて生まれた。

今回の国民投票は市場原理主義、ネオコンのもとで急速に世界を覆った超国家的な官僚支配、すなわちEUや産軍複合体や多国籍企業による地域、世界支配を打ち倒そうという勢力が勃興してきた結果であろう。

こうした大混乱のさなか英国では離脱を主導した政治家たちが公約に誤りがあったとか言い出したり、どのように英国を作り直すかの戦略が全く出てこなかったりと完全な混沌に突入。「単一パスポート」消失と大手金融機関の移転もあり、ロンドンの金融街シティでは失業者が10万人を超えとか。シティの存在感低下は免れない。ポンド急落より影響が大きいのはユーロが崩壊することです。EUの金融機関の内容は惨憺たるものだと思います。もう既に英国では離脱推進の政治家ですらどうしてよいかわからずに狼狽と逃避に走っています。まず市場の影響ですが投票翌日だけで世界の株式市場では215兆円の損失が生まれ、月曜日までの2日間で300兆円以上の損失が生まれた。米国株は5年ぶりの大幅安ですし日本株も日経平均先物が暴落のために一時取引が中断。今回の株安と激しい円高で年金運用機構は30兆円の損失を出したのではとの指摘。英国は経常収支が赤字ですからポンドの暴落で輸入物価の高騰と資本の流出が始まったとみるべきで、これがさらなる破綻と経済の混乱を加速させていきます。これからは円の独り勝ちになるのではないのでしょうか？長期資金を出せる国は日本の金融機関しかありませんので、一時は下げた株価も半分近く戻したように力強さを感じます。人々の生活は地域を中心とした自治継続でまず人々の衣食住を全力で確保するということから始めるべきでしょう。